

# Riku Matsubara

## テノール 松原 陸 帰国記念リサイタル

イタリア歌曲～バロック～  
日本歌曲～オペラアリア  
新進気鋭 松原 陸の世界へご案内

Care selve/Tu lo sai/Ave Maria

Lunge da lei...De' miei bollenti spiriti...O mio rimorso... 他

Schumann/widmung Bach/Italian Concerto (ピアノソロ)



ピアノ  
蒲生祥子

2019 3/12 [火] 会場 

19:00開演 (18:30開場)

料金 4,000円 (全席自由)

MUSICASA (ムジカーサ)  
(小田急線・地下鉄千代田線 代々木上原東口徒歩2分)

■お問合せ：TEL：090-4600-3792 / piron1023@yahoo.co.jp (金子)



## 松原 陸 テノール

東京都杉並区出身。成城学園中学、同高等学校を経て、東京藝術大学音楽学部声楽科テノール専攻卒業。東京藝術大学大学院音楽研究科修士課程声楽専攻オペラ研究分野修了。修士号取得。修了時に宗次徳二賞、武藤舞賞、及び両賞金を授与される。

東京藝術大学大学院在学中に英国王立音楽院 (Royal Academy of Music) 修士課程に給付金付き特待生として合格。その翌年も給付金付き特待生に選ばれている。2018年10月まで約2年間、英国王立音楽院 (Royal Academy of Music) にて研鑽を積む。2017年度BCJA英国留学奨学金を授与される。

第3回 Juilliard Prize Singing Competition で特別奨励賞を受賞。第43回イタリア声楽コンクール入選。第35回飯塚新人コンクール入選。

2017年、イタリア開催の第3回 Monterosso al Mare Cinque Terre 国際オペラコンクール第1位。審査委員長 Luisa Maragliano ならびに全審査員より、2017年8月イタリア開催のコンサートへの招待を受け、国際コンクール優勝者として出演。

2017年12月に、在英国日本国大使館 (Embassy of Japan in the UK) 開催の年間行事で最も重要とされている The Emperor's Birthday (天皇誕生日) にて日本人代表に選出され、両国の国歌 (君が代、God Save the Queen) を独唱し好評を博した。また、これまで出演し、実績のある人物の中で、特に好評であった人物のみが掲載されるリストに掲載され世界中に配信されている。

2016年よりこれまでの実績が高く評価されて、ベトナムの文化省、外務省、スポーツ省から賓客として招待される。ホーチミン市にて表敬訪問ならびに客演演奏を務める。好評を博し、2017年、2018年、2019年と毎年ベトナム政府から招待アーティストとして招待を受けている。表敬訪問、客演演奏だけでなく社会貢献活動の一環として、ベトナムの孤児院や病院などで数多くの演奏やボランティアをおこなっている。

声楽を渡辺多津彦、小原啓楼、鈴木寛一、川上洋司、寺谷千枝子、Angel Bertacchi、Eugenio Fogliati、Richard Berkley-Steele の各氏に師事。

オペラでは第60回藝大大学院オペラ定期公演、W.A. モーツァルト 歌劇《コシ・ファン・トゥッテ (指揮: 高関健、演出: 粟國淳)》フェルランド役でオペラデビュー。同演目を文化庁文化推進特別事業として上演し、新国立劇場オペラパレスにも出演。

ハイライト演奏会形式として、C.F. グノー《ロメオとジュリエット》ロメオ役、G. ヴェルディ《椿姫》アルフレード役、《リゴレット》マントヴァ公爵役、《ナブッコ》アブダッロ役、G. ドニゼッティ《ランメルモールのルチア》エドガルド役、G. プッチーニ《ラ・ボエーム》ロドルフォ役で出演。

コンサートソリストとして、L.V. ベートーヴェン《第九》《合唱幻想曲》なかにし礼氏の作詞による《日本語第九》、G.F. ヘンデル《メサイア (第64回藝大メサイア他)》、J.S. バッハ《ヨハネ受難曲 (福音史家、ソリスト)》《口短調ミサ》《クリスマスオラトリオ (福音史家、ソリスト)》《カンタータ 191 番》、W.A. モーツァルト《戴冠ミサ (第25回藝大附属高等学校定期演奏会他)》《大ミサ》《二長調ミサ》《ト長調ミサ》《変口短調ミサ プレヴィス》、F.J. ハイドン《天地創造》《テレジアミサ》《ネルソンミサ》《ハルモニアミサ》、C. グノー《聖チェチーリア荘厳ミサ》、F. シューベルト《変ホ長調ミサ》《5番ミサ》、A. ブルックナー《3番ミサ》、M.A. シャルパンティエ《降誕祭前夜のミサ曲》、郡司敦《春のはな》《夏のしずく》、上田益《レクイエム》等、日本全国、及び海外にて多数の作品に出演して、数々のプロオーケストラとも共演している。

近年では活躍の場を海外に広げ、ロンドンで数多くのコンサートに出演する他、ヨーロッパ (イタリア、イギリス、フランス、ポルトガル)、東南アジア (ベトナム) といった海外でのコンサートにも出演している。

日本ではこれまでに新聞 (朝日新聞、大分新聞、富山新聞)、海外では音楽雑誌 (ロンドン) にて、様々な演奏会で好評を博したことが掲載され、最も注目されている若手音楽家の一人に選出される。

オフィシャルホームページ: [riku10.com](http://riku10.com)

## 蒲生祥子 ピアノ

パリ・エコール・ノルマル音楽院を首席で卒業後、パリ国立高等音楽院入学、2008年同音楽院を卒業。マリア・カナルス国際コンクールでのディプロマ等国際コンクールに入賞。在学中よりヨーロッパ各地で多数リサイタル・コンサートを行い好評を博す。現在、日本に拠点を置きながらもヨーロッパやアジア各地で活躍の場が増し、キラのある小気味良い演奏とセンスの良さは共演者からの信頼も厚く、ソロにとどまらず室内楽奏者としても活動。

